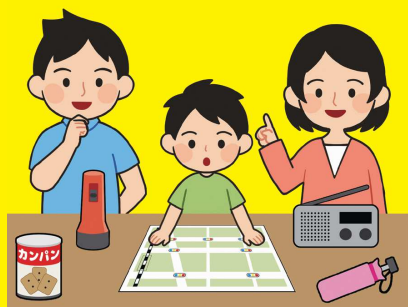


六ヶ所村 原子力防災 ガイドブック



この中の情報は、下記の計画で定めている内容を記載しています。
村のホームページにも掲載していますので、ご覧ください。

『六ヶ所村ホーム ▶ 防災 ▶ 原子力防災への取り組み』

- ◎ 六ヶ所村原子力災害避難計画
 - ▶ 【東北電力株式会社東通原子力発電所対象】
 - ▶ 【原子燃料サイクル施設対象】

<六ヶ所村原子力防災ガイドブック>

発行年月：2023年(令和5年)3月

発行：六ヶ所村原子力対策課

TEL 0175-72-2111(代表)、0175-72-8132(直通)

ガイドブックについて

このガイドブックでは、原子力に関する基礎知識や原子力災害が発生したときの対応、日頃からの備えなど、皆さんに知っておいてほしい原子力防災に関する内容をまとめています。

原子力災害時は、一人ひとりが正しい情報入手・理解し、国や県、村からの指示に基づいて、落ち着いて行動することが大切です。

このガイドブックをお読みいただき、原子力防災に関する理解を深めていただきますようお願いいたします。

もくじ

1 放射線の基礎知識	P 1～4
放射線の基礎知識	1～2
原子力災害とは	3
被ばくとは(外部被ばく・内部被ばく)	4
2 原子力施設と村の体制	P 5～8
六ヶ所村と原子力施設	5～6
原子力防災対策重点区域(PAZとUPZ)	7～8
3 原子力災害が発生したら	P 9～12
防護措置の基準	9～10
住民避難の流れ、避難のタイミング	11～12
4 屋内退避	P 13～18
屋内退避とは(家の中ではこうしよう)	13～14
持ち出し品、避難時の服装チェックリスト	15～16
《Q&A》 こういう時は、どのように行動したらいいですか？	17～18
5 安定ヨウ素剤	P 19～20
誰が飲むの？どこでもらえるの？	19～20
6 【避難】 安定ヨウ素剤配布場所	P 21～26
「安定ヨウ素剤配布場所」と「バス乗車場所」の役割	21～22
施設一覧、安定ヨウ素剤配布場所マップ	23～24
バス乗車場所マップ	25～26
7 【避難】 避難退域時検査場所	P 27～30
「避難退域時検査場所」の役割、検査の流れ	27～28
避難退域時検査場所マップ	29～30
8 【避難】 避難経由所	P 31～34
「避難経由所」の役割	31～32
避難経由所マップ	33～34

9 【避難】 避難所	P 35～38
「避難所」の役割、過ごし方	35～38
◎ 避難ルートマップ	P 39～56
ルートマップもくじ	39
村内各地区から村南地区まで	40～44
村南地区から弘前市まで(※東通原子力発電所対象)	45～56
10 日頃からの備え	P 57～60
日頃からの備え	57～58
『安否確認・安定ヨウ素剤簡易問診カード』の書き方	59
『避難所カード』の書き方	60

はじめに

平成23年3月11日に発生した東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故により、これまでの原子力防災体制は大きく見直されることになりました。

六ヶ所村では、国や青森県の考え方を踏まえて、平成26年4月、東北電力株式会社東通原子力発電所を対象とした避難計画を策定、令和3年3月には、日本原子力発電株式会社原子燃料サイクル施設を対象とした避難計画を策定しました。

このガイドブックは、万が一原子力災害が発生した場合、住民の皆さんが「正しい行動」「落ち着いた行動」をとれるよう、原子力防災の基礎知識や災害時に取るべき行動、避難所までの避難経路など、避難計画の内容をわかりやすく解説したものです。

このガイドブックをご活用いただき、原子力防災についてご理解を深めていただけると幸いです。

六ヶ所村としては、原子力防災訓練を通じて得られた課題を検証し、今後も引き続き、避難計画の実効性の向上、原子力防災体制の強化に努めてまいります。

令和5年3月
六ヶ所村長 戸田 衛

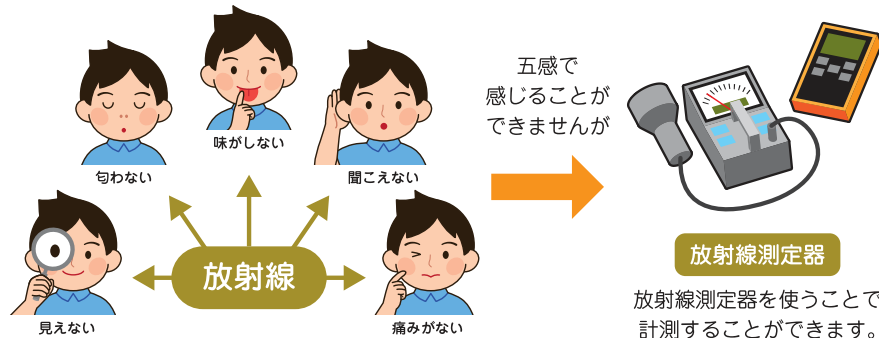
1 放射線の基礎知識

▶ 放射線とは

放射線とは、放射性物質から放出される高いエネルギーを持った粒子や電磁波のことです。

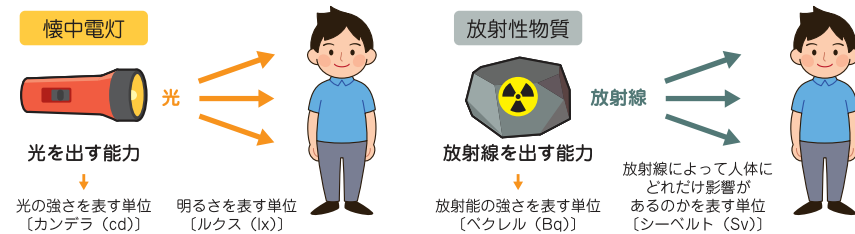
▶ 放射線の特徴

目に見えない、匂いがしない、味がしない、聞こえない、痛みがない…。



▶ 放射能と放射線

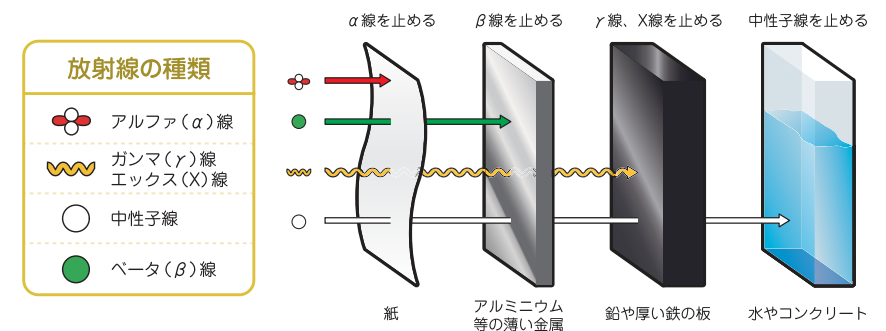
「放射能」とは、「放射線を出す能力」のことで、放射能を持っている物質を「放射性物質」といいます。「放射線」とは電球から出る光のようなもので、放射性物質から放出されます。



*Bq(ベクレル)	放射能の強さを表す単位。飲食物等に含まれる放射性物質を測定するときに用いる。
*Gy(グレイ)	人や物に当たった放射線の量を表す単位。空間に飛び交っている放射線の量を測定するときに用いる。
*Sv(シーベルト)	人体の健康に及ぼす影響を含めた放射線量を表す単位。グレイに人体への影響度の係数を掛けて算出。避難開始の基準など、多くの場面で用いる。 ・1 Sv=1,000mSv(ミリシーベルト) ・1 mSv=1,000 μSv(マイクロシーベルト)

▶ 放射線の種類と透過力

放射線はいろいろな物質で遮ることができます。



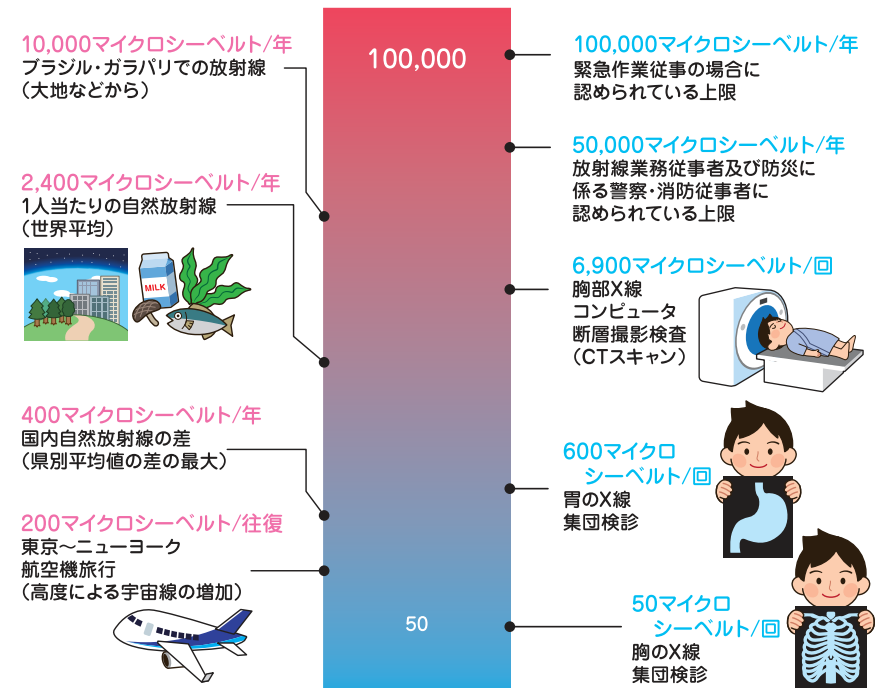
※放射線は、止めることができるため、原子力災害時は、**屋内退避が有効**です。

▶ 身の回りのさまざまな放射線

私たちは日常生活の中で、自然界からの放射線を受けています。

例えば、大地・空気中・食べ物からも放射線が出ており、宇宙からも放射線が降り注いでいます。これらを「**自然放射線**」といいます。また、自然放射線とは別に、病気の診断や治療などの医療でも使われる放射線を「**人工放射線**」といいます。

放射線の量 (マイクロシーベルト / μSv)



▶ 原子力災害とは

原子力災害とは、原子力施設の事故などが原因で、放射性物質や放射線が私達の暮らす環境中に放出されることにより生じる被害のことをいいます。



▶ 原子力災害の特徴

自然災害と原子力災害の違い

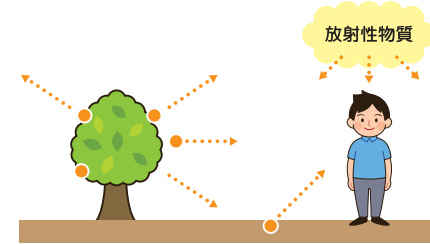
自然災害の場合		原子力災害の場合
避難	身を守る行動	「屋内退避」、避難
近くの避難所へ逃げる	避難所	被ばくを避けるため、遠くの避難所へ逃げる
危ないと思ったら自らの判断で逃げる	避難のタイミング	自己判断は危険！ 不要な被ばくをしないよう 村の指示に従ってください。

▶ 被ばくとは

被ばくとは、身体に放射線を受けることをいい、次の2種類があります。

外部被ばく

体の外側から放射線を受けることをいいます。



内部被ばく

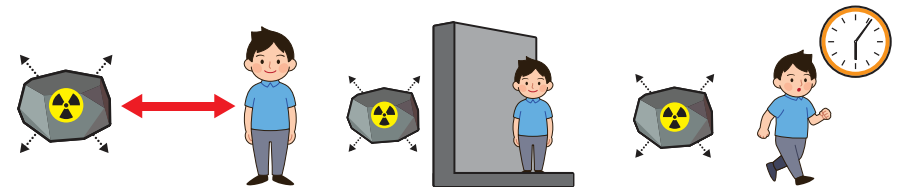
呼吸や食べ物から体内に放射性物質を取り込んでしまい、体内の組織や臓器が放射線を受けることをいいます。



また、放射性物質が皮ふや衣服に付着した状態を「汚染」といい、その付着した放射性物質を取り除くことを「除染」といいます。

▶ 外部被ばくを防ぐためには

「距離をとる」「遮へいする」「時間を短く」の三原則が重要です。



距離による防護

放射性物質からできるだけ遠くに離れる

遮へいによる防護

放射性物質と自分との間を遮へい物で遮る

時間による防護

放射線に被ばくする時間をできるだけ短くする

▶ 内部被ばくを防ぐためには



放射性物質を吸い込まない

マスクや濡れタオルなどで口と鼻を覆う

飲食などの摂取制限

放射性物質に汚染された物を口にしない

皮膚と接触させない

レインコートや帽子等を着用し、皮膚の露出を防ぐ

2 原子力施設と村の体制

▶ 六ヶ所村と原子力施設

六ヶ所村は、尾駈地区に「日本原燃(株)原子燃料サイクル施設」と「(公財)核物質管理センター六ヶ所保障措置分析所」が、北隣の東通村には「東北電力(株)東通原子力発電所」が立地し、3つの原子力事業者、7つの原子力施設が関わっています。



▶ 村の原子力防災体制

村では、これらの施設で万が一原子力災害が発生した場合に備え、地域防災計画・避難計画などを定め、計画に基づき定期的に訓練を行っているほか、住民に対する防災研修も行っています。



防災計画を審議する「六ヶ所村防災会議」



生徒に対する防災研修



原子力防災訓練

日本原燃株式会社 原子燃料サイクル施設



①ウラン濃縮工場

ウランには燃えやすいウラン235と燃えにくいウラン238が含まれており、原子力発電所の燃料として使用するためにはウラン235を3~5%まで濃縮する必要があるため、その作業を行う工場です。



②高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター

日本の電力会社は、使用済み燃料の再処理をフランス、イギリスに委託しており、海外で再処理後に発生した放射性廃棄物はガラス固化体となって返還されます。この返還されたガラス固化体を最終処分するまでの間、30~50年貯蔵管理するための施設です。



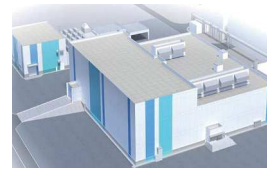
③再処理工場

原子力発電で使用した燃料は再利用が可能のため、再処理工場に運ばれて放射能が弱まるまで貯蔵プールに貯蔵します。その後、化学的な処理を加えてウラン、プルトニウムを取り出す作業を行うための施設です。



④低レベル放射性廃棄物埋設センター

原子力発電所の運転や点検で発生した低レベル放射性廃棄物(例:洗浄に使用した水、水を浄化するために使用した金属、保温材など)は、発電所でドラム缶に収納され、セメント等で固形化されます。この低レベル放射性廃棄物を受け入れ、強固な地盤に設置した鉄筋コンクリートのピットに納め、放射能が減衰するまで管理する施設です。



⑤MOX燃料工場

原子力発電所で使い終えた使用済み燃料の再処理により取り出した、ウランとプルトニウムを混ぜ合わせ、MOX燃料を作るための施設です。

東北電力株式会社 東通原子力発電所



燃料であるウランの核分裂による熱を利用して蒸気を発生させ、蒸気の力によってタービン(羽根車)を回転させ、そこに直結した発電機を回転させることで発電を行う原子力発電施設です。

(公財)核物質管理センター 六ヶ所保障措置分析所



国内の核物質が平和目的だけに利用され、核兵器等に転用されていないことを確認する保障措置に関する業務を行います。

(写真提供:(公財)核物質管理センター)

▶ 原子力防災対策重点区域（PAZとUPZ）とは

この7つの施設は、事業の目的や設備の仕組みがそれぞれ異なるため、原子力災害が発生した場合には、影響を及ぼす範囲も異なります。

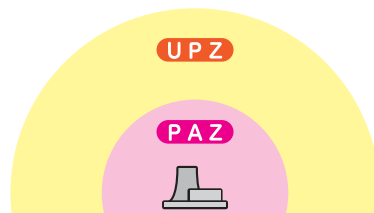
村では、国の考え方にに基づき、その影響が及ぶ可能性がある地域を「原子力災害対策重点区域」として定め、重点的に対策を行っています。

PAZ：予防的防護措置を準備する区域

事故発生後、放射性物質が放出される前の段階から、予防的に避難等を行う区域。

UPZ：緊急防護措置を準備する区域

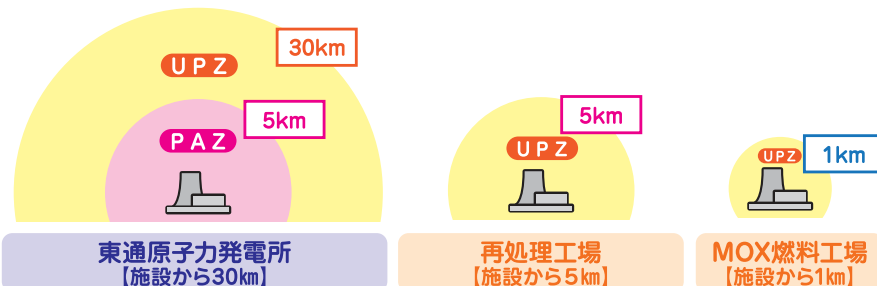
放射性物質が放出される前は「屋内退避」、放射性物質が放出された後に、村等からの指示があった場合は、避難または一時移転等する区域。



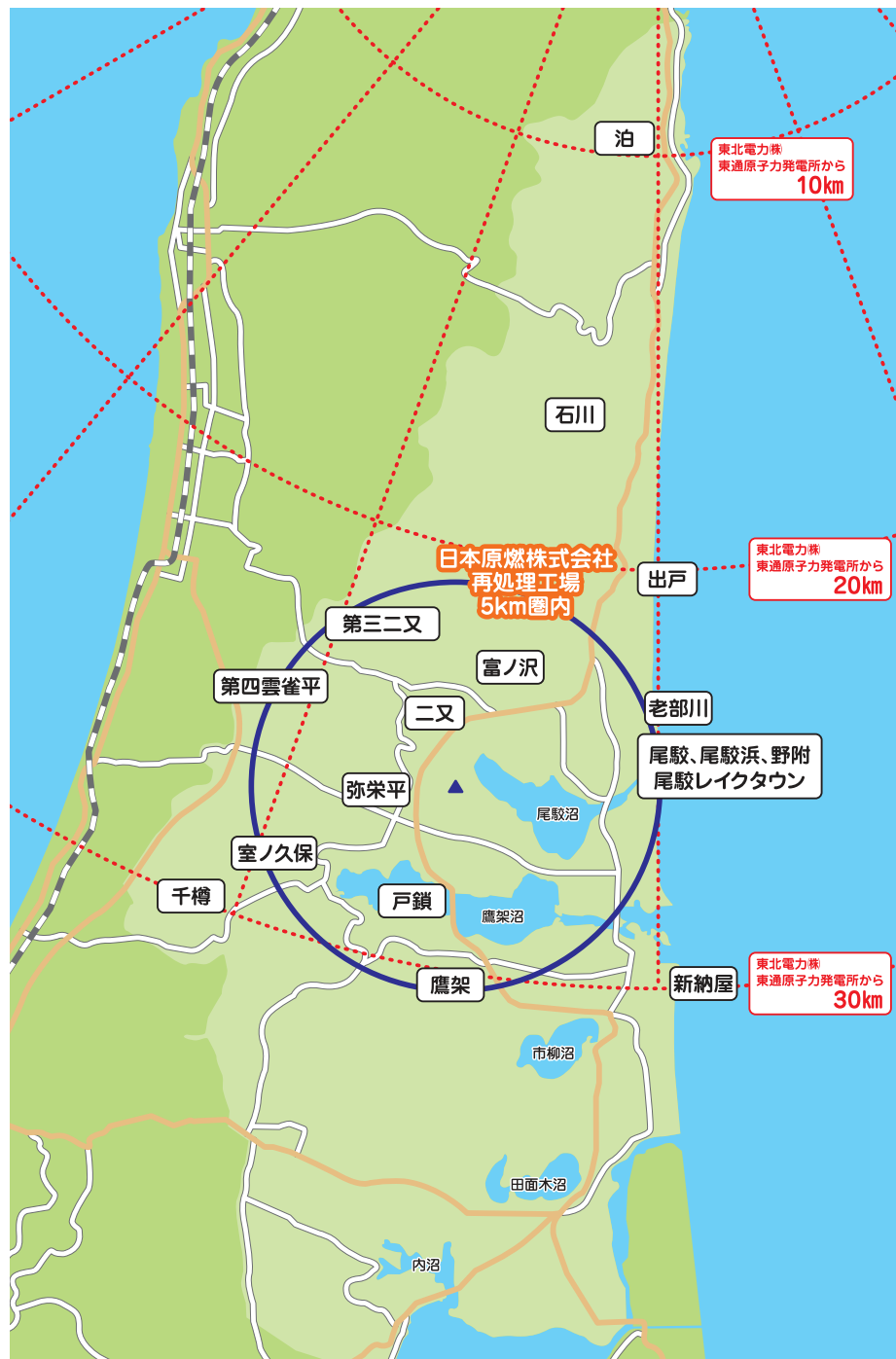
対象施設名		原子力災害対策重点区域		
日本原燃株式会社 原子燃料サイクル施設		PAZ	UPZ	対象地区
1	再処理工場	なし	施設から概ね半径5km	老部川、尾駸、尾駸浜、野附、尾駸レイクタウン、富ノ沢、二又、第三二又、第四雲雀平、弥栄平、戸鎖、室ノ久保、鷹架（村内13地区）
2	MOX燃料工場	なし	施設から概ね半径1km	弥栄平（村内1地区）
東北電力株式会社 東通原子力発電所		施設から概ね半径5km	—	なし
		—	施設から概ね半径30km	泊、石川、出戸、老部川、尾駸、尾駸浜、野附、尾駸レイクタウン、富ノ沢、二又、第三二又、第四雲雀平、弥栄平、戸鎖、室ノ久保、千樽、新納屋、鷹架（村内18地区）

※その他の施設は、PAZ、UPZの設定はありません。

▶ 原子力災害対策重点区域の範囲



▶ 原子力災害対策重点区域内の行政地区



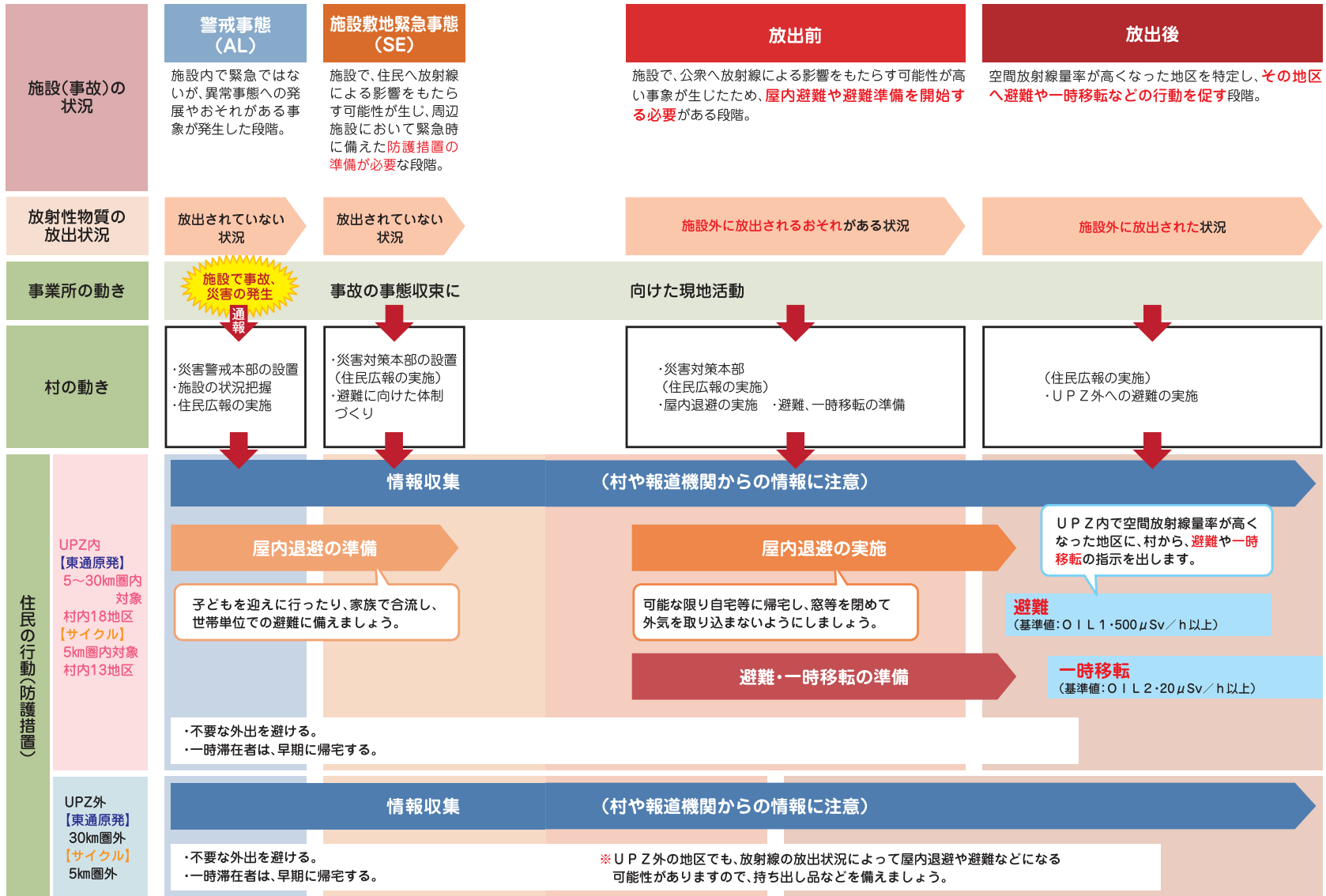
3 原子力災害が発生したら

▶ 防護措置の基準

防護措置とは、被ばくを避けるためにとる行動です。

原子力施設で事故等の原子力災害が発生した場合、屋内退避や避難などの「防護措置」を行う基準が定められており、国が必要性を判断します。

* 2つの施設では、その影響範囲の広さ(7ページ参照)が異なりますが、とるべき防護措置は同じです。



防護措置の内容	「屋内退避」 建物内に避難し、壁などの遮へい効果により外部被ばくを低減し、建物を密閉し、放射性物質の取り込みを防ぐことで、内部被ばくを低減します。	「避難・一時移転」 ・空間放射線量が高い又は高くなるおそれがある場所から離れるのが「避難」。 ・空間放射線量が低い地域でも、不要な被ばくを低減するために、当該地点から離れるのが「一時移転」。 * どちらも避難行動に変わりはありません。	「安定ヨウ素剤の服用」 原子力施設の事故により放出された放射性ヨウ素が、甲状腺に集まって起こる内部被ばくを防ぐために「安定ヨウ素剤」を服用します。	「避難退域時検査(身体、避難車両、携行品の汚染検査)」 放射線測定器で、避難車両、身体、携行品の汚染を検査し、基準値以上の場合は、簡易な除染を行うことで、放射性物質が皮膚や衣類に付着することによる「外部被ばく」や「内部被ばく」を低減します。専用の放射線測定器で測定や、汚染が広がることを防ぐため、簡易な除染を行います。	「飲食物の摂取制限」 地域の生産物の放射線濃度を測定し、一定以上の濃度が確認された場合、内部被ばくを防ぐために、該当する飲食物の摂取を制限します。
---------	--	--	--	--	--

▶ 住民避難の流れ

原子力災害での基本の行動は「**屋内退避**」ですが、その地区の空間放射線量率が高くなったときに、国で「**避難・一時移転**」を判断し、村が住民に指示します。

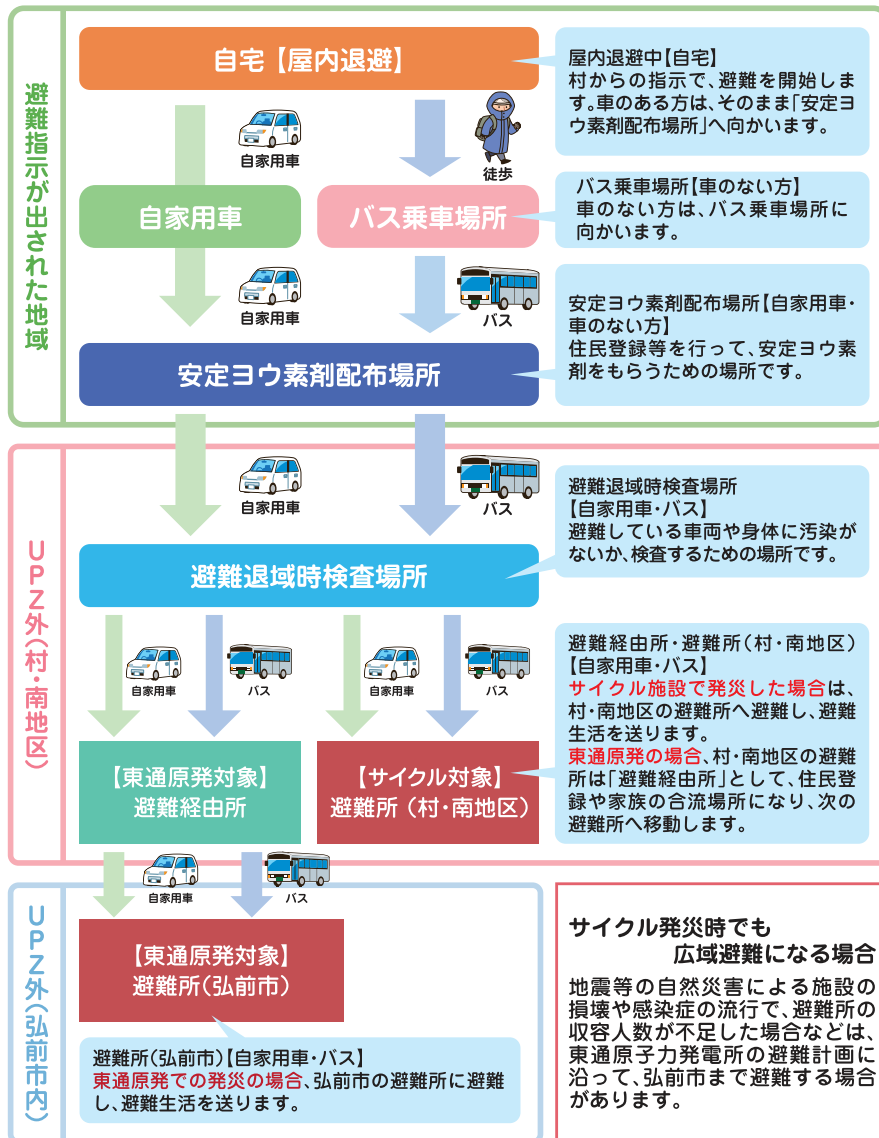
住民の皆さんは、基本的には「**自家用車**」で、車がない方は各地区から村などが用意する「**バス**」に乗り、下記の流れで各避難所まで「**避難**」または「**一時移転**」します。

東北電力(株) 東通原子力発電所

日本原燃(株) 原子燃料サイクル施設

<自宅 → 弘前市の避難所まで>

<自宅 → 村・南地区の避難所まで>



▶ 放射線モニタリング

青森県や原子力事業者では、24時間365日欠かすことなく、各地区に設置されたモニタリングステーションなどで放射線の量を測定しています。

緊急時には、この通常設置された施設だけでなく、持ち運びできる「可搬型モニタリングポスト」などで、避難などを判断するための詳細なデータを測定します。



モニタリングステーション



可搬型モニタリングポスト

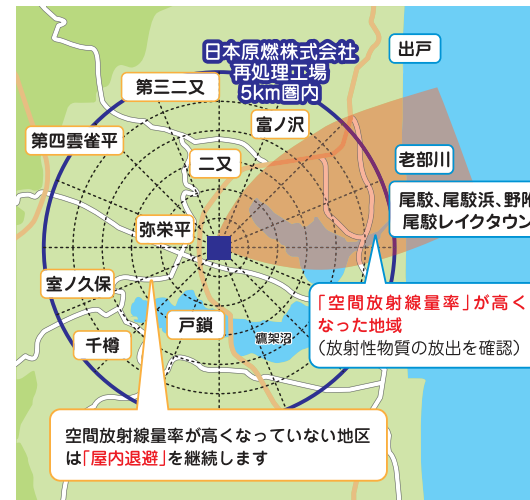
▶ 避難のタイミングについて

放射性物質が施設外に放出された場合でも、全地区が一斉に避難する訳ではありません。これは1つの例ですが、サイクル施設で原子力災害が発生し、施設から東側の空間放射線量率が高くなった場合、国などで「**尾駸地区周辺**」の避難の必要性を判断します。

村では国の判断を受けて、防災行政無線などで、尾駸地区周辺に**避難指示**を出します。

【尾駸地区周辺の値が上昇 → 国が避難が必要と判断 → 村が住民へ避難指示】
 (この判断する値が、0.1です)

この時、空間放射線量率が高くなっていない他の地区は、避難ではなく、「**屋内退避**」を続けることになります。



全面緊急事態となって、放射性物質が放出された後に**尾駸地区周辺**で「**空間放射線量率**」の上昇を確認!

その数値を基に、**国で避難の必要性を判断する**

国が必要と判断したら村が**尾駸地区周辺**に、「**避難**」を指示します

▶ 避難経路が通行できない場合

地震・津波等で道路が損壊し通行できない場合は、防災関係機関とともに、あらゆる避難手段(航空機・船舶等)を検討し、避難を実施します。

4 屋内退避

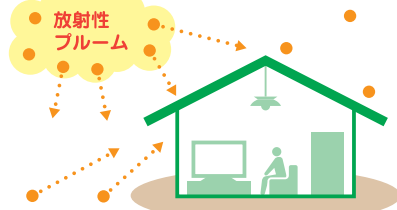
▶ 屋内退避とは

UPZ内の地区では、原子力施設で事故があった場合の基本の行動が「屋内退避」です。

原子力施設から放出された放射性物質は、雲のようなかたまり(放射性プルーム)となって、流れてきます。このとき、自宅など、建物の中に入り、壁等によって放射線を遮ることで、外からの放射線による「外部被ばく」を防ぎます。

もう一つは、建物の気密性を高めて放射性物質が建物内に入るのを防ぐことで、放射性物質の吸収による「内部被ばく」を防ぐ効果があります。

木造家屋よりもコンクリート製の建物の方が、放射線の影響を低減できます。



▶ 村からの情報伝達

原子力施設での事故や災害などが発生した場合、下記のあらゆる手段を通じて、皆さんに情報をお伝えします。これらの手段は、地震や大雨等の自然災害が起こった時と同じです。

情報伝達手段



防災行政用無線



防災告知端末(知らせますケン)



車両での広報



ロックTV(L字放送)

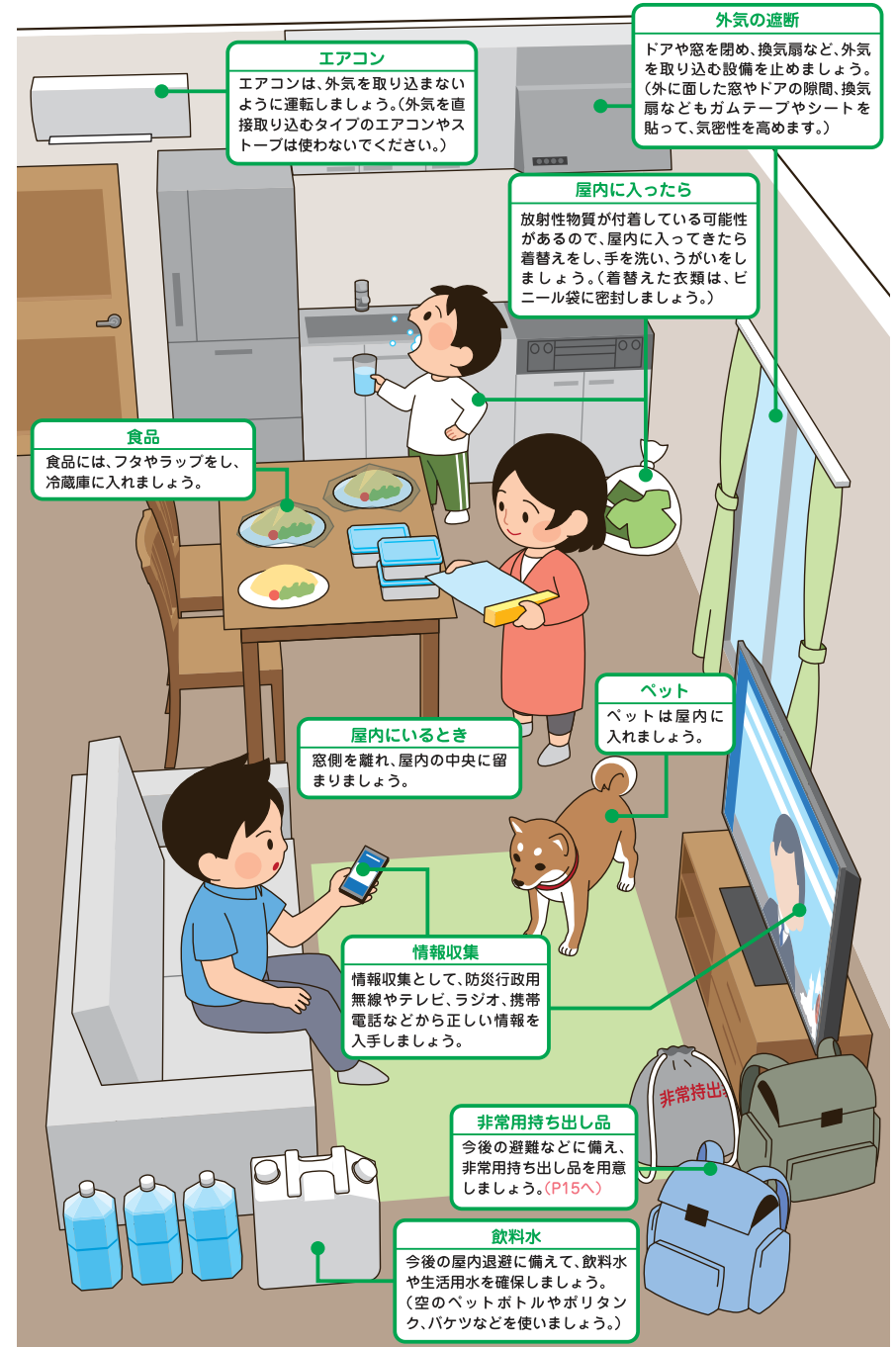


エリアメール(ドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイル)

県等の協力を得て、報道機関へ情報提供
(テレビ・ラジオ)

ソーシャル・ネットワーキング・サービス
(Facebook、Twitter、LINE等)

家の中でやること



エアコン

エアコンは、外気を取り込まないように運転しましょう。(外気を直接取り込むタイプエアコンやストープは使わないでください。)

外気の遮断

ドアや窓を閉め、換気扇など、外気を取り込む設備を止めましょう。(外に面した窓やドアの隙間、換気扇などもガムテープやシートを貼って、気密性を高めましょう。)

屋内に入ったら

放射性物質が附着している可能性があるため、屋内に入ってきたら着替えをし、手を洗い、うがいをしましょう。(着替えた衣類は、ビニール袋に密封しましょう。)

食品

食品には、フタやラップをし、冷蔵庫に入れましょう。

屋内にいるとき

窓側を離れ、屋内の中央に留まりましょう。

ペット

ペットは屋内に入れましょう。

情報収集

情報収集として、防災行政用無線やテレビ、ラジオ、携帯電話などから正しい情報を入手しましょう。

非常用持ち出し品

今後の避難などに備え、非常用持ち出し品を用意しましょう。(P15へ)

飲料水

今後の屋内退避に備えて、飲料水や生活用水を確保しましょう。(空のペットボトルやポリタンク、バケツなどを使いましょう。)

▶ 持ち出し品チェックリスト

これらの持ち出し品は、基本的に地震や大雨等の自然災害が起こった時と同じです。

<input type="checkbox"/> 金銭、貴重品 	<input type="checkbox"/> 身分証明書 運転免許証やマイナンバーカード	<input type="checkbox"/> 最低限の着替えや日用品 コンタクトレンズ、眼鏡、補聴器、生理用品など
<input type="checkbox"/> 服用中のくすり 	<input type="checkbox"/> 水や食料(3日程度分) ◎ 水/1日分3ℓ×家族の人数分 ◎ 非常食	<input type="checkbox"/> ペットのケージやえさなど

▶ 原子力災害に備えた物品チェック

<input type="checkbox"/> 長袖、長ズボンの衣服 	<input type="checkbox"/> 帽子 	<input type="checkbox"/> マスク 	<input type="checkbox"/> ビニール手袋 	<input type="checkbox"/> 雨具・傘
---	---------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------

▶ 避難時の服装チェック

※できるだけ肌を出さない服装で避難しましょう。夏場の避難も同様です。

頭を覆うもの 帽子やフードのついた上着	口や鼻を覆うもの マスクやタオルなど
長袖の上着	手袋、軍手、ゴム手袋など
長ズボン	靴下、長靴、運動靴

※手荷物やかばんなども、ビニール袋で覆うことをお勧めします。
 ※レインコートを着ると、放射性物質が付着していても、脱ぐことで身体への付着を防ぐことができます(脱衣による簡易除染)。



▶ 避難時の行動チェック

<input type="checkbox"/> 正しい情報を入手し、村からの指示で避難する 避難の対象地区、避難先の施設名、避難経路等	<input type="checkbox"/> 電気のコンセントを抜く、ガスの元栓を閉める、戸締りを確認する 	
<input type="checkbox"/> 非常持ち出し品を携行する 	<input type="checkbox"/> ペットも一緒に避難する 	<input type="checkbox"/> 避難中も、ラジオなどで最新の情報を入手する

▶ 避難の仕方

村からの指示が出たら、避難を開始します。原則、**自家用車**で避難します。

隣近所に声掛けし、できるだけ相乗りで避難しましょう。	交通事故に注意し、誘導の指示に従いましょう。	車のエアコンは内気循環にしましょう。
----------------------------	------------------------	--------------------

自家用車避難ができない人は、**バス**で避難します。

隣近所に声掛けし、地区毎に決められたバス乗車場所へ向かいましょう。▶一覧は、23ページ

必ず村の指示に従い、避難してください。
 自主的な避難は、避難中に放射性物質が放出された場合、かえって不要な被ばくをする恐れがあります。

こういう時はどのように行動したらいいですか？

Q こどもが学校にいる時に事故が発生したら？

A UPZ内の小中学校、こども園では、村などから事故発生の連絡を受けた初期の段階から、児童や生徒の引き渡しを開始します。
学校などからの連絡に従い、こどもを迎えに行き、その後は自宅などで屋内退避の準備を行きましょう。
万が一、全面緊急事態に至った際は、引き渡しを中止し、学校などの中で屋内退避を行います。その後、避難の指示があった場合は、避難所(または避難経由所)に避難した後に、保護者への引き渡しを行います。

警戒事態 (AL)	施設敷地緊急事態 (SE)	全面緊急事態 (GE)	
		放出前	放出後
保護者に迎えを要請し、迎えに来た保護者へ子どもを引き渡します。	各学校等で屋内退避を準備しつつ、迎えに来た保護者に子どもの引き渡しを継続して行います。	子どもの保護者への引き渡しを中止し、屋内退避を実施します。	避難指示により、教職員などの引率で避難を行います。

Q 職場にいる時に事故が発生したら？

A 村では、UPZ内外を問わず、事故が発生した警戒事態の段階から、村内企業に従事する方、旅行者等の一時滞在者に対して、早期の帰宅を促します。

警戒事態 (AL)	施設敷地緊急事態 (SE)	全面緊急事態 (GE)	
		放出前	放出後
早期帰宅を促します。	早期帰宅を促します。	各事業所または近隣の公共施設等で、屋内退避を実施します。	避難指示により、バス等で避難します。

Q 家族が社会福祉施設などに入所しています。

A 村では、事故が発生した初期の段階から施設等と連携しながら、入所者の安全を確保します。
入所者や入院患者は、基本的にはその施設内で屋内退避を行います。

警戒事態 (AL)	施設敷地緊急事態 (SE)	全面緊急事態 (GE)	
		放出前	放出後
事故の情報を収集します。	施設内で屋内退避の準備をします。 (施設管理者と村は、受入先の調整と移動手段の確保を県に依頼します。)	施設内で屋内退避します。	避難指示により、バス・福祉車両等で受け入れ先施設への避難を実施します。 (ただし、避難で健康リスクが高まる入所者などは、そのまま屋内退避を継続します。)

～事前に確認、相談しましょう～

Q 在宅で介護している家族がいます。

A 在宅介護者は、基本的にその家族(または支援者)と一緒に屋内退避を行います。
避難の指示があった場合も、その家族(または支援者)の自家用車で一緒に避難します。



Q 避難の時に、村の支援は受けられるの？

A 村では、「身体障害者手帳所持者・要介護度3以上の認定者、70歳以上の単身高齢者及び75歳以上の高齢者世帯、難病患者など」の方のうち、避難等に特に支援が必要な住民を「避難行動要支援者」として名簿に登録しています。
災害時にはこの名簿を防災関係機関と共有し、バスや福祉車両の確保など必要な避難支援を行います。
避難等にあたり支援が必要と判断される方は、事前に役場福祉課へ相談しましょう。



Q 家族は寝たきりで、避難によって容態が悪くならないか心配です。

A 避難行動要支援者のうち、避難することでかえって健康上のリスクを高めてしまう方は、無理に避難を行わず、屋内退避を行います。
村では、家族(または支援者)と一緒に屋内退避できるように、屋内退避施設を整備しています。
事前に主治医、かかりつけ医に相談して、確認しておくことが重要です。
(屋内退避施設)
文化交流プラザ「スワニー」、泊小学校



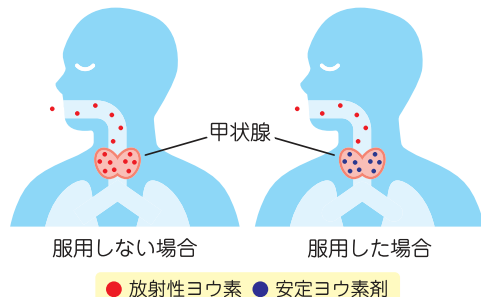
5 安定ヨウ素剤

▶ 安定ヨウ素剤とは

原子力災害時には、放射性ヨウ素が大気中に放出されることがあります。

ヨウ素は甲状腺に集まる性質があり、呼吸や飲食により、放射性ヨウ素を大量に摂取すると、甲状腺の内部被ばくによって、数年から数十年後に甲状腺がんを発生する可能性があります。

あらかじめ、「安定ヨウ素剤」を服用することにより、甲状腺の内部被ばくを低減する効果があります。



※安定ヨウ素剤は、放射性ではないヨウ素を製剤したもので、放射性ヨウ素以外の放射性物質には、全く効果がありません。
 ※治療薬ではありません。

▶ 誰が飲むの？

UPZ内に居住している、または一時的に滞在している方で、服用を希望する方。ただし、ポピドンヨード液やヨウ素に対し、アレルギーのある方は服用できません。また、国内外の研究では、40歳以上の方への服用効果はほとんどないとされています。服用を希望しない方は、そのまま避難することも可能です。

【服用できない方】

- ・ポピドンヨード液(主にうがい薬に含まれる)及びルゴール液使用後ならびにヨウ化カリウム丸服用後に、じんましん、呼吸困難、血圧低下等のアレルギー反応を経験したなど、安定ヨウ素剤の成分またはヨウ素に対し、過敏症の既往歴のある方
- ・ヨード造影剤過敏症の既往歴のある方

種類と服用量

対象者・種類・服用量	大人	子ども	乳幼児	新生児
	13歳以上	3歳以上、13歳未満	生後1ヶ月以上、3歳未満	生後1か月未満
	丸薬2丸	丸薬1丸	ゼリー剤32.5mg 1包	ゼリー剤16.3mg 1包

▶ どこでもらえるの？

六ヶ所村では、「避難・一時移転」の際に開設する「安定ヨウ素剤配布場所」でお渡しすることになっています。

安定ヨウ素剤配布場所の詳細は21ページへ▶

※「安定ヨウ素剤配布場所」で受け取れなかった場合、次に向かう「避難退域時検査場所」でも受け取ることができます。

避難退域時検査場所の詳細は27ページへ▶

▶ 飲むタイミングは？

安定ヨウ素剤は、服用効果のある時間が限られており、放射性ヨウ素を吸入する24時間前から、吸入後2時間までの服用が効果的です。

このため、服用は必ず、村からの指示が出てから飲んでください。



飲んだ後、30分位は体調に変化がないが、家族や周りの人に確認してもらいましょう。

▶ 服用時に注意すること！

過剰に服用しないでください

年齢によって、服用量が決まっています



安定ヨウ素剤は薬剤のため、副作用が出る場合があります



一般的な過敏症(発疹等)、吐き気、胃痛、下痢、その他(甲状腺機能低下症、頭痛等)の症状が出る場合があります。

服用は、原則1回です(指示があった場合のみ、再度服用してください。)

お母さんへの対応(妊娠や授乳中の方)

妊産婦、授乳されている方、未成年者(乳幼児含む)は、優先して服用することが推奨されています。



服用できない人について

服用できない人は、そのまま避難していただきます。

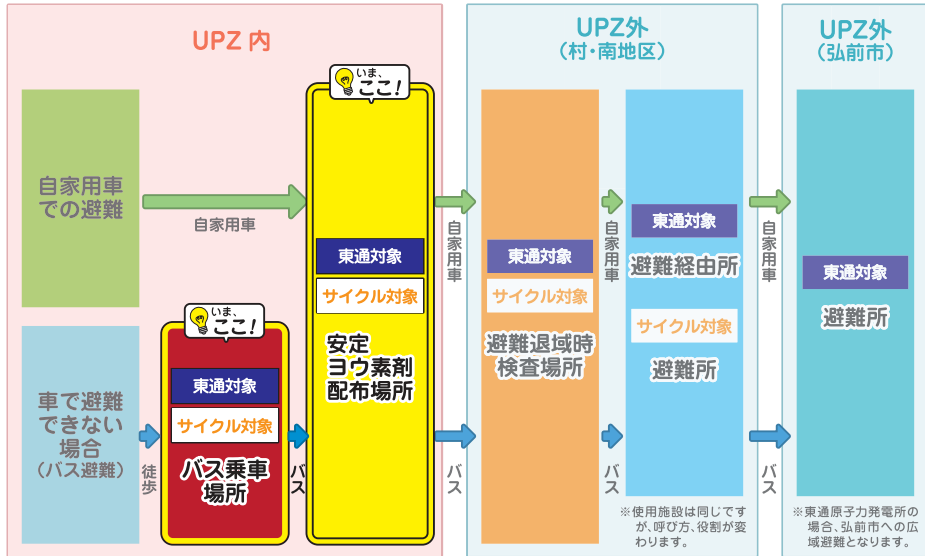


ひなん あんてい そ ざい はいふ ばしょ

6 【避難】安定ヨウ素剤配布場所

村からの避難指示が発令されたら、自家用車避難ができる人は、自宅から自家用車で「安定ヨウ素剤配布場所」に移動します。

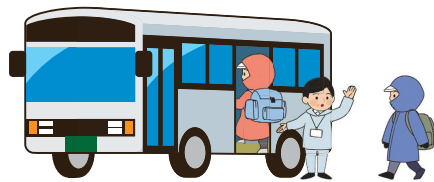
移動手段がない人は、徒歩で「バス乗車場所」に移動し、村などが手配したバスに乗車し、次の「安定ヨウ素剤配布場所」へ移動します。



バス乗車場所とは

自家用車などの移動手段がない人が集まり、村などが手配したバスに乗車するための場所です。

係員の指示に従って乗車し、「安定ヨウ素剤配布場所」に向かいます。



安定ヨウ素剤配布場所とは

ここでは、避難者の受付と、放射性ヨウ素の影響を低減する「安定ヨウ素剤」を配布します。

また、次に向かう避難退域時検査場所をお知らせします。

地区によって施設が異なりますので、対象となる施設を確認して、向かってください。

*バス乗車場所を兼ねている施設もあります。施設近くの地区にお住まいで自家用車のない方は、徒歩で集合してください。

避難住民登録

安定ヨウ素剤の受け取り

安定ヨウ素剤配布場所 及び バス乗車場所位置図 (●:国道、●:県道)



スムーズな避難にご協力を！

受付では「安否確認・安定ヨウ素剤簡易問診カード(右図参照)」を使って、世帯情報を登録します。

屋内退避中などに、ご自宅へ配布している用紙に世帯情報などを記入して、安定ヨウ素剤配布場所までお持ちください。

▶ 書き方の詳細は、59ページへ。

避難者の情報		安否確認		安定ヨウ素剤の簡易問診	
氏名	六ヶ所村大字	住所	〒030-0199	避難先	六ヶ所村大字
電話番号	(日)019-342-1111	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199
避難先	六ヶ所村大字	避難先	〒030-0199	避難先	〒030-0199

▶ 安定ヨウ素剤配布場所 及び バス乗車場所一覧

(東通原発対象)

(※赤字はバス乗車場所を兼ねた施設です)

No	対象地区	バス乗車場所	対象となる 安定ヨウ素剤配布場所
1	泊	泊こども園	⇒ 大石総合体育館
2	石川	石川集会所	
3	出戸	地域交流ホーム	
※ 4	二又、第三二又、 第四雲雀平	二又夢はく館	⇒ 尾駮小学校
※ 5	富ノ沢	大石総合体育館	
※ 6	老部川	老部川集会所	⇒ 第一中学校
※ 7	尾駮、尾駮浜、野附	尾駮小学校	
※ 8	尾駮レイクタウン	第一中学校	⇒ 室ノ久保地区学習等 供用センター
※ 9	戸鎖	戸鎖地区児童厚生体育施設	
※ 10	室ノ久保	室ノ久保地区学習等供用センター	
※ 11	千樽	千樽集会所	
※ 12	弥栄平	弥栄平中央地区内	⇒ こちらの地区は、次の避難 退域時検査場所へまっす く向かって、安定ヨウ素剤 を受け取ってください。
※ 13	新納屋	新納屋集落付近	
※ 14	鷹架	スパハウス ろっかぼっか	

▶ サイクル施設の場合 (※がある地区が対象)

サイクル施設発災時の場合も施設は同じですが、No.1～3、11、13の「泊・石川・出戸・千樽・新納屋地区」が避難対象地区から外れます。

▶ 新納屋・鷹架地区から避難する住民の方

この地区の方は、避難指示が出たら直接「避難退域時検査場所」に向ってください。
その際には、「安否確認・安定ヨウ素剤簡易問診カード」に世帯情報を記入して、係員にお伝えください。

▶ 安定ヨウ素剤配布場所マップ



▶バス乗車場所マップ

下記の地区の方は、
「安定ヨウ素剤配布場所」にてバスを手配しま
すので、直接お越しください(P24参照)。

→尾駈、尾駈浜、野附、富ノ沢、
尾駈レイクタウン、室ノ久保

※下記地区の具体的な乗車場所は、村から指示
します。

弥栄平中央地区内

対象:弥栄平

新納屋集落付近

対象:新納屋

スパハウス ろっかぽっか

対象:鷹架

泊こども園

六ヶ所村大字泊字川原75-20 ☎0175-77-2128



対象地区名

泊



二又夢はぐ館

六ヶ所村大字尾駈字二又83-26 ☎0175-72-2919



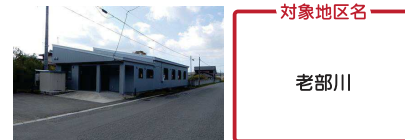
対象地区名

二又・第三二又
第四雲雀平



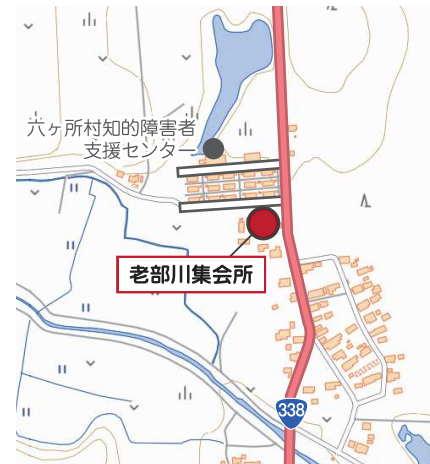
老部川集会所

六ヶ所村大字尾駈字猿子沢2-145 ☎0175-72-2896



対象地区名

老部川



石川集会所

六ヶ所村大字出戸字棚沢62-74



対象地区名

石川



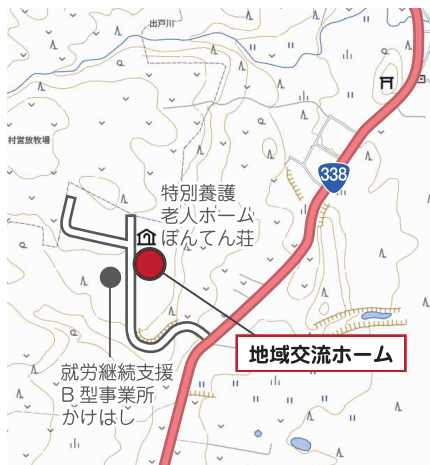
地域交流ホーム

六ヶ所村大字出戸字棚沢130-17 ☎0175-72-3455



対象地区名

出戸



戸鎖地区児童厚生体育施設

六ヶ所村大字鷹架字久保ノ内77-1 ☎0175-74-2735



対象地区名

戸鎖



千樽集会所

六ヶ所村大字鷹架字千樽108



対象地区名

千樽



「国土地理院の電子形図に記号とルート、道路名を追記して掲載」

「国土地理院の電子形図に記号とルート、道路名を追記して掲載」

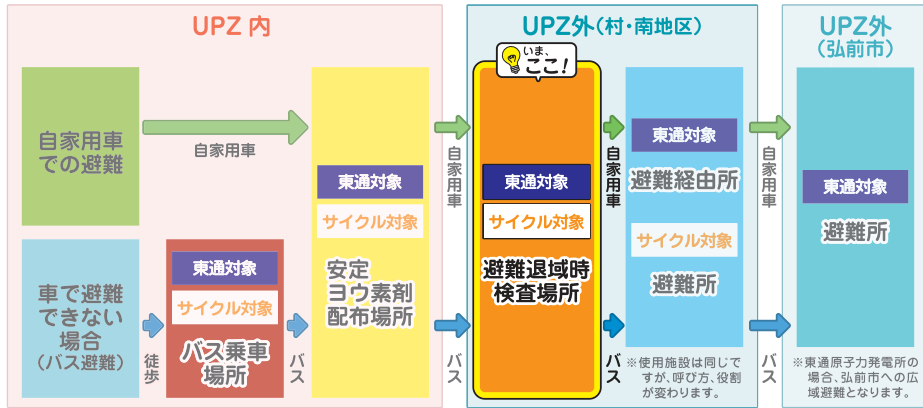
7 【避難】避難退域時検査場所

▶ 避難退域時検査場所とは

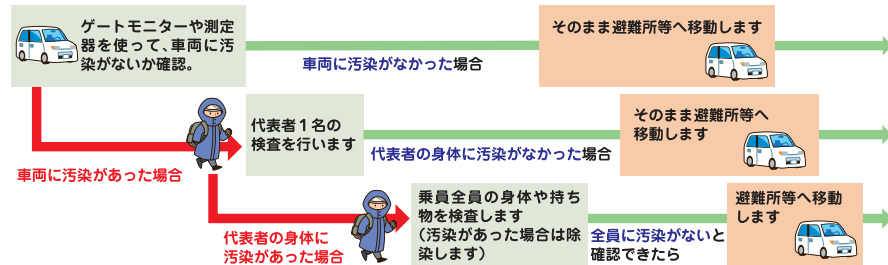
「安定ヨウ素剤配布場所」にて、避難住民登録と安定ヨウ素剤を配布された後は、「避難退域時検査場所」に向かいます。

ここでは、避難してきた住民の車両や身体などに汚染がないかを、放射線測定器などを使って検査します。もし汚染があった場合は、ここでふき取りなどの簡単な除染を行います。

右表の候補地のうち、災害の状況に合わせて最も適切な場所に開設します。



▶ 避難退域時検査の流れ



▶ もしも汚染があったら

車両の場合

ふき取り



簡易除染員が、濡らしたウエスなどでふき取ります。

身体の場合

衣服を脱ぐ



衣服の表面についている場合は、これで除去できます。

ふき取り



皮ふなどの場合、ウエットシートなどでふき取ります。

▶ 避難退域時検査場所位置図（候補地）

【●:国道、●:県道】



▶ 避難退域時検査場所 候補地一覧

この候補地の中から、最も適切な場所を選んで開設します。災害時の村からのお知らせに注意してください。

No	候補地名	住所
1	六ヶ所高等学校	六ヶ所村大字倉内字笹崎305
2	旧千歳中学校	六ヶ所村大字倉内字笹崎1021-1
3	千歳平小学校及びはるき小公園	六ヶ所村大字倉内字笹崎396
4	酪農会館	六ヶ所村大字倉内字笹崎868
5	南小学校	六ヶ所村大字倉内字湯沢12-8
6	第二中学校	六ヶ所村大字倉内字湯沢112-1
7	クリーン・ペア・はまなす	六ヶ所村大字尾駱字家ノ後12-159

▶ 避難退域時検査場所マップ



① 六ヶ所高等学校

六ヶ所村大字倉内字笹崎305 ☎0175-74-2304



② 旧千歳中学校

六ヶ所村大字倉内字笹崎1021-1



③ 千歳平小学校及びはるき小公園

六ヶ所村大字倉内字笹崎396 ☎0175-74-2161



④ 酪農会館

六ヶ所村大字倉内字笹崎868 ☎0175-74-3120



千歳平小学校及びはるき小公園

酪農会館

六ヶ所高等学校

旧千歳中学校



⑤ 南小学校

六ヶ所村大字倉内字湯沢12-8 ☎0175-73-8835



⑥ 第二中学校

六ヶ所村大字倉内字湯沢112-1 ☎0175-75-3141



クリーン・ペア・はまなす

⑦ クリーン・ペア・はまなす

六ヶ所村大字尾駸字家ノ後12-159 ☎0175-68-2508



「国土地理院の電子形図に記号とルート、道路名を追記して掲載」

「国土地理院の電子形図に記号とルート、道路名を追記して掲載」